

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	フロンティアキッズ葛西
施設所在地	東京都江戸川区東葛西6-18-11

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感で感じる、楽しむ 音であそぼう

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

月に2回行っているリトミックの活動やクラス活動、英語の時間でタンバリン、カスタネット、すずなどの楽器演奏や歌を楽しんでいる姿がある。昨年1月の発表会での年長クラスの楽器演奏へのあこがれの様子も見られる。そうした姿からもっと様々な楽器に触れ、鳴らすことを楽しむことで、楽器や音楽への興味関心、音楽の楽しさをより深めていきたいと考えこのテーマとした。

2. 活動スケジュール

0, 1歳児 随時

2～5歳児

4月－英語講師の派遣と英語教育プログラムの活用により英語の歌やリズムを通じた音遊びを開始・各クラスで継続的に実施

9月－楽器の名前を知り、簡単な曲に合わせて演奏楽しむ

11月－楽器の名前を再確認し、簡単な曲に合わせて演奏楽しむ 自由時間に楽器あそびする

12月クリスマス会で5歳児が演奏披露

1月ロバの音楽座演奏会で様々な楽器や曲に触れて音楽を楽しむ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

楽器 (カホン、太鼓、マラカス、クラベス、ギロ、ウッドブロック、木琴、タンバリン、カスタネット、トライアングル)

楽器カード 楽器の図鑑 手作り楽譜

コンサート・英語講師への依頼

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

楽器に触れ自由に鳴らして楽しむ。短い曲に合わせて演奏することを楽しむ。楽器の名前カードを使って楽器の名前を再確認する

演奏している動画を鑑賞し使い方や音楽の楽しさを知らせる

交互唱を行い歌わないで相手の歌を聴く経験をする

歌に合わせて鳴らす

英語講師による英語の歌に合わせた楽器遊び

4, 5歳はリズムや慣らし方などを大人と一緒に替えてみて、その面白さを感じる

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>





5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

楽器を自由に触れたことや、楽しむことを重視したので、リズム打ちは簡単なものにし、多少リズムが合わなくても注意しないよにしたことで積極的に取り組んでいた。
年長児は木琴に関心を持つ子が多く、自分からメロディを覚えるようになり曲の演奏ができるようになっていった。夕方の自由時間に誰がやってもよい環境を作ったことで自主的に練習する姿があった。また、それに刺激され年下の子の参加も多く見られた。プロの演奏や他言語(英語)の歌等に刺激を受けてより関心が高まっていた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	フロンティアキッズ葛西
施設所在地	東京都江戸川区東葛西6-18-11

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感で感じる、楽しむ 物の不思議発見

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
どのクラスも毎日散歩に出て戸外活動を楽しんでいる。葉っぱ、石などの自然物を持ち帰る園児も多く、大切にしておき、家に持ち帰る子もいる。その自然物をもっと詳しく見ていくことで、物の細かい部分や形、色などの不思議さを感じることで、身近な物への興味関心が高まればと思い選択した。

2. 活動スケジュール

随時散歩や室内で興味を持ったものを、題材として観察する
3月顕微鏡を使った観察をする

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
花、落ち葉、砂、石、木の実、木の枝など
虫眼鏡 観察ボックス 透明ケース 顕微鏡 カレイドスコープ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

随時散歩や室内で興味を持ったものを、透明ケースや観察ボックス、虫眼鏡などで観察しつつもと違った見え方を体験する。大人の働きかけによりその不思議さにも気が付くこともある。

4, 5歳児は顕微鏡を知り、いつも見ているものがどう見えるかを体験しひとり一人の探求心を深かまって行く。

カレイドスコープを使って、万華鏡の見え方を楽しむ

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

0歳—散歩で拾ってきた石や枯葉を持ち帰り、観察ボックスに入れてみる。「ざらざらだね」「大きいね」「青虫が食べたのかな？」など大人が感じたことを伝えると「おおきい」「パクパク」と自分の知っている言葉で表現していた。

1歳—カレイドスコープを園児におろすと初めて見える風景に夢中になり何度ものぞき込んでいた。観察ボックスは中に自然物を入れることを楽しみ地面をよく見て葉や枝を探そうとしていた。その際に石や土、木や根などに触れ保育者と一緒に感触を楽しんでいた。

2歳—観察ボックスに落ち葉を入れて、保育者が見ていると興味を示し何人かの子が見に来る。落ち葉の模様が大きくなり良く見えることに驚き何度も見ている。

3, 4歳—散歩で拾ってきた物を観察ボックスや虫眼鏡で見してみる。一人でじっくり見たり、友だちと感想を言いながら見ている子と様々だった。これも見てみたいと室内の遊具を持ってきて観察している子もいた。

5歳—顕微鏡を出す。それを見て「アレは薬を作るときに使うんだよ」「爪は見られるかな？」と自分の経験から知っていることや、思ったことの話が出る。初めてのことに関心を示していることが伺えた。実際植物の茎のサンプルを見ると良くわからないなりに、ギザギザしているとうもろこしみたいなどと感想を言っていた。翌日も見ることを伝え終了。翌日爪を見たいと言っていた子はしっかり覚えており朝から期待している姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

何気なく見ているものでもこうして観察することで、子どもたちの興味関心の気持ちの高まりの違いを感じた。やりすぎて大人主導にならないように気を付けながらも、子どもの様子を見ながら、必要に応じてより探求心の高まる働きかけをしていきたいと思った。また、子どもたちは大人が思っている以上に毎日の中でよく見ていることを改めて知ることができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	フロンティアキッズ葛西
施設所在地	東京都江戸川区東葛西6-18-11

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感で感じる、楽しむ 触れて特徴を感じる

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

自園はモンテッソーリ教育を特徴としている、様々な教具に触れ、関わる中で素材の違いを感じる子どもがいる。その興味関心を遊びの中でさらに深めて、楽しい遊びに繋がるようにしたいため。

2. 活動スケジュール

随時行う

2、3月素材カードを使ってその素材探しのあそびをする

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

素材カード (木、布、プラスチック、金属、毛糸、ガラス)

様々な素材の遊具

温覚版

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

素材カードを作成しその素材の遊具と共に知らせていく。触って感触の違いなどにも気づくようにしていく。

年齢に応じて素材数を調整して行う。幼児クラスではその素材の遊具を自分で探すあそびを行い、宝探しのように楽しみながら関心を高めていく。

図鑑、素材カードを使って関心度を高めていく

乳児クラスでは、ほぼ毎日使う遊具の素材を会話の中で伝えるようにしていく。

触った感触を楽しむ

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

5歳—素材カードを見せると木やプラスチックは身近にあるのですぐに反応している。その素材の遊具を探してくる遊びも楽しんで参加している。小学生も体験保育で参加したので良い刺激にもなった。国旗の旗の布や、入れ物にしているガラス瓶なども見つけてきていた。触って感触について話すと、冷たい、ざらざら、柔らかいなど自分で感じたことを話していた。友だちの真似をする子もいたがこれが周りの物に関心を持つ良いきっかけになっていると思う。2回目は前回の事を覚えている子が多く

3, 4歳—木のおもちゃやプラスチックの遊具を使う際に違いなどを知らせたり、教具にあるねじ回しは金属であることを知らせると少し関心を示している。クーゲルバーンでは玉が木の道を通るときの音と金属板を通るときの音の違いを知らせる「ほんとだ、音がきれい」と関心を示していた。

2歳—木の肌触りを感じながら積み木であそんでいる。いろいろな形があることに興味を示し穴に合わせたり摘んだり並べたりを楽しんでいる。

0, 1歳—室内にある教具や玩具と一緒に触りながら、冷たいなどの感触やでこぼこだねなど、一緒に触りながら感触を味わうようにした。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

素材探しゲームは真似をする子じっくり探す子と色々だったが、楽しんでいる。金属などをもっと身近にセッティングすればよかった。感覚板では目隠しをするので、見た目と違い触ってみるとコルクと木の違いなどが分かりにくいとの事だった。紙とプラスチックの違いを見た時は硬さや感触の違いは分かっていたが、温度の違いは体温の関係もあり難しかった。机などにおいて同じタイミングで触るなどづればよかったと反省する。関心を持って参加し、反応も良かったので、継続的に取り組んでいきたいと思った。

乳児は主に木、プラスチック、ガラスなどの素材の遊具であそぶ。保育士が違いなどを知らせると真似をしてツルツル、ざらざらなど言っている。